

2018年2月4日<降誕後 第5主日礼拝>

YY兄

招詞：このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイ1:20-23)

聖書 マタイによる福音書16章13-23節

ローマの信徒への手紙10章8-10節

奨励 『天国の鍵』 のポイント

本日の奨励：『天国の鍵』はイエス・キリストの十字架と復活の信仰である。

***律法について**：本日の説教では、罪は律法違反背のことで、その霊的力としての罪からの解放が述べられます。律法は時代によって徐々に内面的になって行きます。

***旧約時代の律法**：律法は、一般的にはモーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）を言いますが、パウロの場合は、このモーセ五書の他に十戒を意味することが多く、特にロマ書の場合には、大半が十戒を意味しています。十戒には、名前の通り十の戒めがありますが、その初めには「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」と語っています。これがキリスト教時代になると「罪の奴隷から導き出す神」になります。

***ユダヤ教時代の律法**：この時代の律法の役割は二つありました。申命記五章一節には

「モーセは、全イスラエルを呼び集めて言った。イスラエルよ、聞け。今日、わたしは掟と法を語り聞かせる。あなたはこれを学び、忠実に守りなさい」とあります。したがって十戒を「忠実に守る」として、そのために十戒を「学びなさい」と語っているのです。ユダヤ人は「忠実に守る」ことが難しいため、「学ぶ」こと「朗読する」ことに力を入れていました。Ⅱコリ3:15aでは十戒の朗読のことが述べられています。パウロはこの十戒の朗読だけでは、覆いがかかっていて神を充分には見られない。それで、Ⅱコリ3:16では「しかし主（イエス）の方に向き直れば、覆いはとり去られます」と語っています。

***キリスト教時代の律法**：本日語られますロマ書10:8-10は、新約時代の律法と福音について述べており、この覆いを取り除かれた救いについて述べられます。ロマ書10:8は申命記30:14からの引用でこの最初の「御言葉」は申命記では戒めを意味します。しかし、このロマ書10:8では「戒め」から「信仰の言葉」に意味が変えられているのです。その御言葉とは10:9「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活されたと信じるなら、あなたは救われるからです」、そしてこのことはパウロが決めたことではなくてイエス・キリストが生命をかけてなされたことであり、さらに父なる神がロマ書3:4「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです」とあり、父なる神の霊によってイエス・キリストは復活させられたことによるのです。後はロマ書10:9のごとくわたしたちの信仰と告白が求められています。そしてロマ書8:4のごとく律法を「忠実に守る」ことが出来るようになるのです。